

祝・50号!
わーい
すーい
ようなー!
お祝い
するですー

ぼくの番組が
50回もあったら
このおめでとう
は、おめでとう
は、おめでとう

え、四コマまんがは
45回目か
50本のまんが
届いたや
50個のみかん
届いたや

はあ、あー
50回もあつた
おめでとう

古き良き時代
新たな元号が近づいている平成30年。そんな今だからこそ、デイケアでは昭和の遊びをテーマに「なつかしの遊び」プログラムを実施。かきたけん玉・お手玉・百人一首・あやとりなど郷愁



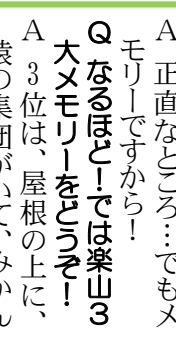
選曲ミスを悟った瞬間の関谷院長

世紀の大誤審?
久々の開催となった新春歌合戦。エントリーは30名にもなりましたが、各々が頂点を目指して得点を競い合った。関谷院長も『2億4千万の瞳』を熱唱...とはならず、「キーが合っていない! 選曲間違えた!」と珍しく苦戦を強いられた。しかし採点機能では最高得点が示され、この結果に対し院長は「いやいや、今の歌じゃあ納得できないですよ」と謎のストイックさを見せた。



「真っ白な世界に一人、自分の呼吸音のみ聞こえるのがいいんです」

すき☆コレ
西病棟の多和田志穂さんはサバイバルゲームが大好きな格好から入る多和田さんは米軍が採用しているクレイ社製の軍服を購入。今年には早々に雪山戦を行ってきた。



「写真が地味でスママセン(笑)」

羅笑門
今月は梁山シリーズ第二弾! 梁山創設からその歴史を見続けている! 樋口清志さん(48)を紹介いたします。

Q 早速ですが、カメラが趣味なんですか?
A そうです。風景や野鳥を撮ってましたね。レンズを揃えるのに、けっこう大変でした。

Q 値も張りますか?
A 正直なところ...でもモリーですから!

Q なるほど! では梁山3大モリーをどうぞ!
A 3位は、屋根の上に、猿の集団がいて、みかんを食べていたこと。

A 2位は、大雪で膝まで積もった日でもメンバーさんが来てくれた事です。



「こんなに大きな大根が採れました」

リハビリの小窓
「実りのおっそわけ」
病棟で行われている家庭菜園で大根が収穫され、青々と茂った葉つき大根はベテラン女性スタッフを中心に見事完売。実よりも葉が欲しいという声に永見啓太作業療法士(24)は年の差を感じていた。



「お久しぶりです」元当院副院長の井川先生

◆年の瀬に勉強会
12月21日(木)、県の発達障がい支援医療従事者養成研修が当院デイケアセンターにて開催された。研修にはおよそ50人が参加、いかわクリニックの井川典克先生が「発達障がいの理解と医療」と題した講演をおこない、障害特性の見分け方などを解説した。講演を聞いた参加者からは「発達障がいの支援は今後ますます重要になる。さらに勉強して理解を深めたい」との声が聞かれた。



岩川(右)「ポ一つと見てないで早く返しなさいよ」川崎(左)「...ハイ」

◆もちつきも世代交代
1月10日(火)、恒例のもちつき大会が行なわれ、つかれた餅は、ぜんざいとして振舞われた。担当した東灘工ミ作業療法士は「病棟の高齢化が進む中でいかに安全にお餅を提供できるか思案した」と話した。また、今年にはベテラン不在の中で餅つきとなり、新人の川崎PSWが慣れない手つきで返しを行っていた。



「お久しぶりです」元当院副院長の井川先生

◆2月の家族教室
第一部「デイケアについて」講師: 夏目靖子主任(作業療法士)

第二部懇談会
日時: 2月18日(日) 14時~16時
場所: デイケアセンター
対象: 統合失調症 患者様とご家族

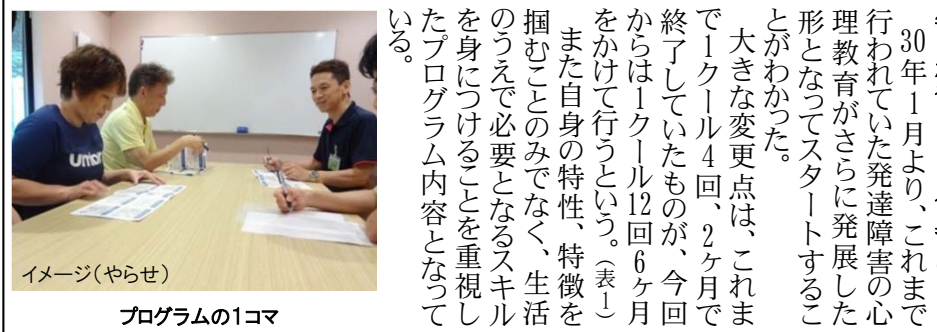
養南新聞

発行所
社会医療法人 緑峰会
養南病院
〒503-0401
海津市南濃町津屋1508
☎(0584)57-2511
Fax(0584)57-2513
http://www.younan.or.jp
☎ younan@ogaki-tv.ne.jp



発達障害支援プログラム

1月より始動!



プログラムの1コマ

(表1) 発達障害のプログラム

1. サポーターを見つける	平成30年 1月13日(土)
2. 相談する、援助を求める	平成30年 1月27日(土)
3. 話の聞き方	平成30年 2月10日(土)
4. 断り方	平成30年 2月24日(土)
5. 日常生活を営む力(家の中)	平成30年 3月10日(土)
6. 日常生活を営む力(外出)	平成30年 3月24日(土)
7. ストレスコーピング①	平成30年 4月14日(土)
8. ストレスコーピング②	平成30年 4月28日(土)
9. 感情のコントロール	平成30年 5月19日(土)
10. 感覚の過敏・過鈍性	平成30年 5月26日(土)
11. SST	平成30年 6月9日(土)
12. ディスカッション	平成30年 6月23日(土)

障害に寄り添う支援
完全に治癒するということではないだけに定期的な参加を続ける中で障害と向き合い、また付き合っていく技術を獲得してもらうのが狙いだ。

担当する神崎順次係長は「生きづらさを感じている人たちが少しでも、この障害や傾向を理解し、日常生活や社会生活の助けになれば」と話す。



資料を手に意気込みを見せる神崎係長

◆勉強会 ①
1月15日(月)、医療ガス講習の報告会が行われ、有馬新路看護課長から医療ガス安全管理委員会業務の説明や、酸素ボンベ調整の取付手順などの説明がなされた。

「取扱いには注意を!」

◆勉強会 ②
12月25日(月)、東灘工ミ作業療法士より、日本精神障害者リハビリテーション学会の出張報告があった。「やる気」を高める介入法や認知機能を高めるプログラムについて学んだ内容を発表した。

「やるせーよ!」(いつもの汚い岐阜弁はどうしたんですか?)

◆新年互礼会
1月4日(木)、仕事始めにあわせ新年互礼会が行われた。挨拶の中で関谷院長は「養南病院では下町ロケット。規模は小さくても、うちならではの仕事をしよう。一方で開設時の理念でもある『自分や家族が入院したくなる病院』の意図をもう一度よく考え、患者さんの生活の質を落とさぬよう」と話した。

みかるとの
「読者からの新企画募集コーナーという企画はどうでしょう」
よく50回もつたようなお疲れ様でした。

「50号おめでとう!」
記念すべき第1号を手にはしゃぐ編集長

◆薬品棚のリニューアル
12月20日(火)、北病棟の薬品棚が開院当初から使用していた手製の物から最新式の物へと入れ替わった。以前より申請をしていた小寺公彦係長は「使いやすくなつて業務にゆとりができるのでより良い看護が提供できそうです」と珍しくまじめに話した。

「便利になりました」ムダにたくさんい上り半分の小寺係長

◆家族教室
1月21日(日)、気分障害の家族教室が開催された。臨床心理士の橋田勝美部長は「悩みを持つ人の何気ない仕草やサインに気を付け、悩みを聴く際も相手の立場にたち共感して聞く姿勢も大切」と語った。